

歴史と伝統を今に受け継ぐ

地名紹介と昔話

当自治会は、大竹川の  
上中流に位置し、北に周  
田川山、ここからは弥生  
時代の石斧、摺石等が発  
見されており古くから地  
区内に住居があったもの  
と考えられます。小名の

〔地名と昔話〕

二、平成五年八月前任河野自治  
会長のもと四十一年振りに御  
神幸が行われ盛會に終わる。  
大竹の地名↓竹は本来北向きの  
山によく生育する。小名にも  
ある様に此の地で良質なもの  
が採れ、これが地名となった  
と考えられる。

中にも正歩、北勝負、坪ノ内、  
上大竹、下大竹、馬森、種森、段、  
迫田、堤、大野、正楽寺、登り尾、  
木目、木ヶ原等非常に稲作と林  
業に関連する名が多く見受けら  
れます。

自治会活動の中心は昭和五十  
七年建築の集団転作研修セン  
ターである。

〔過去の大きい行事〕

一、宮元の楽踊(日、月踊)の  
奉納(今年が六年に一回の当  
り年)当屋、竹林啓介氏)



▲ 活動の拠点、大竹・正楽寺集落センター

正楽寺観音堂↓御本体「石」建  
立及び旧正楽寺の関連ははっ  
きりしないが「木食」⇨興山  
上人(一五三六―一六〇八)  
真言宗僧の手による木像が安  
置されてある。

勘場跡↓その昔、大旱魃の時、  
生活用水にも事欠く事あり、  
「水」の分配等のため役人の  
たむろ場。

種森↓大昔、大旱魃あり、悲嘆  
にくれた農夫が小高き丘より  
眺むれば一ヶ所のみ僅か乍ら  
育ちたる所を見つける。そこ  
に稔った籾を分け合い翌年の  
種子とした事からくる。

窓の会の自治



浮村貞右エ門、茂左エ門の墓↓  
豪族にして毛利の家来、明和  
寛政の年号が入っている。毛  
利江戸・有備館教師(画家)  
「浮村貫臣」の先祖の墓

向開作自治会

相互理解と豊かで平和な  
地域づくりを!!

西北に名勝地青海島  
を望み、三隅川の河口  
に波穏やかな仙崎湾に  
赤い夕日が映える環境  
に恵まれた住宅造成地  
昭和五十八年殿村自  
治会六班から十三戸で誕生した  
向開作自治会。内容はさておき、  
形だけは自治会になったかと思  
う中に十四年過ぎて現在は五  
十三世帯となりました。

「自治会の窓」にとりあげる  
内容も、他の自治会のように歴  
史も伝統もなく、夢だけは大き  
くもっているつもりであり、今  
からこれを創る自治会です。産  
声をあげて十数年の自治会づく  
りを辿ってみることにします。

まず自治会の規約づくり。従  
来のものを改正し、十三条とし、  
資料を集めて平成二年に二十二  
条の規約とし、不備な条項は加  
除改正し現在に至っています。

つぎに、話し合いの場、他自  
治会との交流の場としての集會  
所の必要を切実に感じた二十戸  
が資金づくりの月掛け積み立て  
を開始。建設委員会を中心に会員  
全員が一体となって、平成元年  
に竣工を終えた。借入金も二年  
後に全額支払い完了。集会所周  
辺の満開の桜花を眺め、自治会  
の親睦会、五、六月につつじ、



▶ 向開作自治会集会所

紫陽花も咲き、花壇には婦人部  
有志による四季の草花作り。

また偶数月の第二日曜日を自  
治会作業日として公園の草刈り、  
集会所周辺の除草等で半日汗を  
流す。勤務の都合で話せなかつ  
た人との会話、新人会員の紹介、  
役員の連絡事項、コミュニケーション  
の場にもなり、ここでの  
会話が自治会の環境改善に役立  
ったことも度々あります。  
現在新築中の家もあり、予定  
されている家もあるようです。  
誰が住んでも気安く馴染める環  
境づくり、心づくりを自治会員  
全体で考えて行きたいと思いま  
す。